

問題【社会】

平安時代の出来事に関する（１）～（７）の問いに答えなさい。

- （１）10世紀中ごろに北関東で反乱を起こしたのは誰ですか。
- （２）同じく10世紀中ごろに瀬戸内海で反乱を起こしたのは誰ですか。
- （３）後三年の役などを経て東北地方、特に平泉（岩手県）で勢力を広げたのは何氏ですか。
- （４）天皇の位を譲って上皇となり、院政を始めたのは誰ですか。
- （５）鳥羽上皇の没後に天皇と上皇の対立などにより、1156年に起きた争いを何と言いますか。
- （６）（５）の乱の後、平清盛と源義朝が中心となった争いを何と言いますか。
- （７）平清盛が武士として初めてなった役職は何ですか。

豆知識 雑学コラム

武士の誕生の流れ

「武士」が誕生した初期の名称は「兵」と呼ばれていました。その武士たちが「侍」と呼ばれる貴族の警備をする者、地方の役職に就く者、地方の武士が都に上って朝廷に仕える者がいました。やがて多くの家来を従える武士団を形成し、武士団の中でも特に有力だったのが、天皇の子孫である平氏と源氏でした。平将門や藤原純友が朝廷の政治に不満を持ち武士団を率いて反乱を起こしますが、その反乱を抑え込んだのも武士であったため、大きく成長していきます。平氏は西日本、源氏は東日本、東北地方には奥州藤原氏が勢力を広げていきました。

11世紀後半以降、白河上皇、鳥羽上皇による院政が始まります。この二人の院政により多くの寺社が建てられ、その寺社は上皇に手厚く保護されました。また武装する「僧兵」をかかえて勢力を拡大していきました。しかし、鳥羽上皇の没後に「保元の乱」が起こります。これは鳥羽上皇の後継争いに加え、藤原氏や平氏や源氏も親子兄弟同士で争うなど、壮絶な戦いでした。保元の乱では平清盛と源義朝は協力関係にありましたが、後に対立します。それが「平治の乱」につながっていきます。平治の乱では平清盛が勝利し、やがて武士で初めて太政大臣になり、平家の全盛期を迎えます。この平治の乱のときに、源義朝側で出陣していたのが源頼朝です。まだ13歳ほどであったといわれています。

はじめは警備の役人であった武士が、平清盛の時代になって、ついに政権をとりました。武士は江戸時代末に大政奉還が行われるまで、約700年間も政治の舞台に立つことになります。

【解答】

- （１）平将門
- （２）藤原純友
- （３）奥州藤原氏
- （４）白河上皇
- （５）保元の乱
- （６）平治の乱
- （７）太政大臣